

公民館運営審議会 会議概要

1	審議会名	令和5年度 第2回安曇野市公民館運営審議会
2	日時	令和5年11月27日 午前10時から
3	会場	安曇野市役所 大会議室
4	出席者	羽重会長、高橋副会長、安藤委員、中澤委員、神谷委員、望月芳雄委員、 中田委員、鈴木委員、青柳委員、青木委員、望月みどり委員
5	市側出席者	矢口教育部長、中央公民館二木館長、豊科公民館臼井館長、 穂高公民館早川館長、三郷公民館藤松館長、堀金公民館山田館長、 明科公民館安井館長、中央公民館大蔵主事、金井主事
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	1人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和5年12月12日

協 議 事 項 等

会議の概要

- 開 会 高橋副会長
- あいさつ 羽重会長、矢口教育部長
- 協議事項
(1) 令和6年度公民館事業計画(案)について
- そ の 他
- 閉 会 高橋副会長

協議事項

- (1) 令和6年度公民館事業計画(案)について(説明:各公民館長)

【委員】

1ページ目に公民館の理念というものが、3行目には「社会教育機関としての役割を明確にします」と書かれている。これについて中央公民館は、教育機関としての役割の全市的な課題がどんなところにあるのかを教えていただきたい。

また、中央公民館として、課題に対してどのような対策をなさっているのか、できるだけ具体的に教えていただきたい。

【事務局】

まず課題ですが、先ほど各公民館長から話がありましたように、コロナ禍という事もあり、昔と比べて地域の皆さんがなかなか集まりにくくなっている。また、時代社会が変わったことにより、地域もそれほど公民館活動に力を注げなくなっている。さらに今のような経済状況から、まずは仕事優先だということもあり、地域の事は後回しという構図になってしまっている。そんな親御さんの状況をお子さんが見ているので、この先どうなっていくのかは不明である。ただ、やはり地域作りというものは、日頃から取り組んでいかないと、いざというときに発揮できないものであるため、どう対処していくかが課題である。

各5つの公民館では、地域の特色を活かした、より人が集まりやすい企画を練っていただいている。市の市民生活部には地域づくり課というものがありますので、他課とも連携し、地域のお祭りや様々なイベントを盛り上げていくように進めていく。

【委員】

もう1つお聞きしたいことがある。この事業計画は、地域の公民館の運営方針、理念に基づく重点により計画されている。中央公民館としての理念はあるが、来年度は何に思いを込めるのか、理念に基づく来年の重点は何があるのかを示されていない。そういったことが示されるとまとまりができ、さらに各地域公民館の皆さんの活動が裏打ちされるのでは。

それと提案ですが、運営方針と理念に基づく重点は、1ページに入れた方がいいように思われる。それについても回答をお願いしたい。

【事務局】

中央公民館は5つの公民館の調整役として本庁舎にあるため、実際の現場での活動というものは各5つの公民館で行われている。そのため、他の公民館で示している運営方針というものがない。しかし、生涯学習課としての運営方針も必要かと思われるので、来年度はここに基本理念の他に、より具体的な運営方針を書かせていただく。

【委員】

先日、明科地域の文化祭に参加したところ、他地域の方から「明科は色々なコンサートを1年通じて沢山やっているね」というような意見をいただいた。他地域でも全くやっていないわけではないので、広報等に載っている他の地域での活動を紹介した上で、明科にもぜひ来てほしいと話した。先ほど館長がおっしゃったように、明科は高齢化率が高いのと人口減少もあるので、他地域から来ていただくのは、とてもありがたいと思っている。

それと地区公民館の館長と主事の会議が、大体どこの地区でも2回で終わっている。今、地区の役員をやっているが、地区公民館の館長や主事とお会いする中で、すごくやる気があって何でも参加してみようとしている方と、なるべく人集めや面倒な事はしたくないという方がいた。公民館は地域の人たちが集まる場所なので、公民館事業に参加してもらえるよう、ぜひ工夫していただきたい。

【事務局】

地区公民館長と主事の皆さんのモチベーションについて、私も同じように感じている。前向きの方もいれば、どちらかというあまり表に出てこない方もいる。

ある地区公民館では、地域の皆さんを集めるために、例えば南農の生徒さんをお呼びして、工作教室や自宅でいらないものを持ってきて交換しあう等、重層的な工夫を凝らした催しを始めた。また、別の地区公民館では、あるテレビ番組のDVDをみんなで見合っで感想を言い合ったとお聞きしている。それらの事業を共有しないのは勿体ないので、2月に行われる1年のまとめの館長主事会で、何人かの地区公民館長に発表していただこうかと考えている。

【委員】

コロナ禍ぶりに行われたかと思えます常念フェスティバルを、どのような内容で今年は実施したのか、堀金の公民館長にお聞きしたい。

【事務局】

仮装行列やバザー、ステージ発表の他に警察や自衛隊にも来ていただいた。有志の人たちより、どんな内容がいいか意見を集め、催し物を決めている。来年度も今年度の内容を基に計画し、多くの方が集って、関わることのできる場を設けたい。

今年は周囲の協力のもと、堀金から各地域へ広く発信したことで、堀金以外からも多くの方に来ていただいた。また、今年度から商工会や学校、こども園、区長会、社協関係等、あらゆる団体に協力を依頼した事で、20団体が関わっていただいた。

多くの方に集まってもらうために、これからも皆さんの要望を受け入れて、誰もがやってよかったと言えるような場づくりをしていきたいと思う。

【委員】

やはり公民館活動は、主催する人たちも参加する人たちも、みんなが楽しめるのが大事だと思っている。そういう意味で来年度の事業を拝見させていただきますと、これは出たくなるなというような、楽しい事業がたくさんあって、大変嬉しい。

それから地域の諸団体や学校等だけでなく、市役所の各課との連携も増えてきているように感じる。そのような観点から見ると、地域づくりが大変いい方向に進んでいるように思える。

現在、それぞれ地域住民が一堂に会する行事が減ってきている。穂高の運動会も中止になってずいぶん経つが、7～8年ほど前に参加する区が減ってきたので、地区公民館長等の担当者にアンケートを取った。すると、運動会を続けるという地区は2地区しかなく、9割が辞めたいという回答だった。

コロナが始まってから納涼祭は中止となったが、今年は穂高公民館の方で新しい形にて、納涼祭が行われた。ぜひこういう一堂に皆様が会する行事というようなものを、大事に充実させていただけると嬉しい。

【委員】

地区公民館長さんのモチベーションは課題の一つだが、あまり周りが騒ぎすぎると、地区公民館長を引き受けるハードルが上がってしまう。すると、やはりなり手が少なくなってしまう。リーダーがコミュニケーションをとって「さあ、やるぞ!」と言ってくれば、地域は盛り上がる。ただ、そういったことはなかなか難しいので、地区公民館長をやった人が大変だったと思って終わらないよう、注意する必要がある。やって良かったと思ってもらえるよう配慮することも、とても大事である。

今、各地域の公民館ができることは、そういった館長さん達の愚痴を聞き、ちょっとした励ましの一言をかけることだと感じている。